

産婦人科専門研修カリキュラム

○ = 必習、無印 = 70%以上の習得、△ = 努力目標

1. 総論

1. 基本的診療能力

- 1) 医師として患者に接するマナー
産科婦人科を受診する患者の特性を理解し、患者を全人的にとらえることができる。
診療にあたって、患者および家族との信頼関係を築くことができる。
- 2) インフォームドコンセント
インフォームドコンセントに基づいて診療することができる。
患者および家族にインフォームドコンセントすることができる。
- 3) 医療面接（問診）と問診事項の記載ができる。
- 4) 全身の診察と所見の記載ができる。

2. 医の倫理とプロフェッショナリズム

- 1) 医師としての倫理的基本姿勢について理解し、女性を総合的に診察することができる。
- 2) 医学・医療にかかわる倫理指針を理解する。（臨床研究、治験、疫学研究、ヒトゲノム・遺伝子解析研究）
- 3) Evidence-based medicine (EBM) を理解し、種々の診療ガイドラインに準拠した医療を実践することができる。

3. 産科婦人科診察と所見

女性生殖器の発生、解剖、生理、病理、さらに、新生児の特徴を理解した上で、以下の診察と所見の記載ができる。

- 1) 視診
- 2) 双合診、直腸診
- 3) 新生児の診察

4. 検査法

必要な検査をオーダーし、その結果を理解し、診療することができる。検査結果をわかりやすく患者に説明することができる。

- 1) 一般的検査
- 2) 産科婦人科の検査（項目は各論で記載）

5. 基本的治療法・手技

適応を判断し、実施できる。

- 1) 呼吸循環を含めた全身の管理
- 2) 術前・術後管理（摘出標本の取り扱い・病理検査提出を含む）
- 3) 注射、採血
- 4) 輸液、輸血
- 5) 薬剤処方
- 6) 外来・病棟での処置

6. 救急患者のプライマリケア

- バイタルサインの把握、生命維持に必要な処置ができる。
専門医への適切なコンサルテーション、適切な医療施設への搬送ができる。

7. チーム医療

- チーム医療の必要性を理解し、チームのリーダーとして活動できる。他の医師やコメディカルと協調して診療にあたることができる。必要に応じ、他科、ほかの専門医にコンサルテーションできる。他院、ほかの医療施設への紹介、搬送ができる。

8. 医療安全

- 医療安全の重要性と、あり方を理解する。
医療事故防止および事故後の対応がマニュアルに沿って実践できる。

9. 保健指導、予防医学的・遺伝医学的対応

患者の疾病、病状に応じた的確な保健指導、予防医学的対応を理解し、実践できる。各疾患、各個人の遺伝医学的背景に基づいた医療を理解できる。

10. 医療の社会的側面

- 1) 健康保険制度を理解する。

保健医療はその範囲内で行われなければならないことを理解、実践する。

- 2) 地域医療の重要性を理解し、適切な病診連携ができる。
- 3) 主たる医療法規を理解し、遵守する。

- (1) 医師法・医療法

- (2) 母体保護法

- ①人工妊娠中絶

- ②不妊手術

- ③健康保険法、国民健康保険法、老人保健法

- 11. 診断書、証明書が記載できる。(妊娠中絶届出を含む)

- 診断書、証明書が記載できる。(妊娠中絶届出を含む)

12. 生涯学習

- 医学、医療の進歩に追随すべく常に自己学習する。

学会に積極的に参加し、発表する。

論文を執筆する。

2. 生殖・内分泌

【一般目標】

排卵・月経周期のメカニズム（視床下部—下垂体—卵巣系の内分泌と子宮内膜の周期的変化）を十分に理解する。その上で、排卵障害や月経異常とその検査、治療法を理解する。生殖生理・病理の理解のもとに、不妊症、不育症の概念を把握する。妊孕性に対する配慮に基づき、適切な診療やカウンセリングを行うのに必要な知識・技能・態度を身につける。また、生殖機能の加齢による変化を理解する。

【行動目標】

I. 経験すべき疾患

1. 内分泌疾患

- 1) 女性性機能の生理で重要な、視床下部—下垂体—卵巣系のホルモンの種類、それぞれの作用・分泌調節機構、および子宮内膜の周期的変化について理解し、説明できる。
- 2) 思春期の発来機序とその異常を理解する（「女性のヘルスケア」の項参照）
- 3) 月経異常をきたす疾患について理解し、分類・診断でき、治療できる。
 - (1) 原発（性）無月経
- (2) 続発無月経
- (3) 過多月経・過少月経
- (4) 機能性子宮出血
- (5) 月経困難症、月経前症候群
- (6) 体重減少性無月経および神経性食欲不振症
- (7) 肥満、やせ
- (8) 乳汁漏出性無月経および薬剤性高プロラクチン血症
- (9) 多嚢胞性卵巣症候群
- (10) 早発卵巣不全・早発閉経
- (11) Turner 症候群
- △ (12) 性分化疾患

2. 不妊症

不妊症の定義と分類について理解し、検査・診断を進めることができる。その原理、適応、副作用などを理解した上で、適切な治療を行うことができる。また、現在の生殖補助医療技術や、不妊治療に伴う副作用について理解し説明できる。

- 1) 女性不妊症について検査・診断を行うことができ、治療法を説明できる。
 - (1) 排卵因子
 - (2) 卵管因子
 - (3) 子宮因子
 - (4) 子宮内膜症
- 2) 男性不妊症について検査・診断を行うことができ、治療法を説明できる。

性機能障害、造精機能障害、精路通過障害

- 3) その他の原因による不妊症検査・診断を行うことができ、治療法を説明できる。両性適合障害（性交後試験（Hühner 試験））、免疫因子
- 4) 高次で専門的な生殖補助医療技術について、倫理的側面やガイドラインを含めて説明し、紹介できる。

3. 不育症

- 1) 不育症の定義や不育症因子について理解し、それぞれを適切に検査・診断できる。
- 2) 受精卵の着床前診断の適応範囲と倫理的側面を理解できる。

II. 検査

- 1) 家族歴、月経歴、既往歴の聴取ができる。
- 2) 基礎体温：記録させ、排卵の有無を判定できる。
- 3) 血中ホルモン値測定：必要な項目をオーダーし、結果を診断に応用できる。
- 4) 超音波検査による卵胞発育モニタリング、排卵の判定ができる。
- 5) 子宮卵管造影検査、卵管通気・通水検査ができる。
- 6) 精液検査ができる。
- 7) 頸管粘液検査、性交後試験（Hühner 試験）ができる。
- 8) 子宮の形態異常の診断：経膈超音波検査、子宮卵管造影ができる。
子宮鏡検査の適応を判断できる。
- △ 9) 不育症に対する抗リン脂質抗体、各種自己抗体検査、血栓性素因検査の結果を判断できる。

III. 治療・手術

- 1) 消退出血誘発法：Kaufmann 療法；Holmstrom 療法ができる。
- 2) 高プロラクチン血症治療、乳汁分泌抑制療法ができる。
- 3) 月経随伴症状の治療ができる。
- △ 4) 月経前症候群治療を理解し、説明できる。
- 5) 排卵誘発：クロミフェン・ゴナドトロピン療法を理解し、説明できる。
副作用対策を理解している。i) 卵巣過剰刺激症候群；ii) 多胎妊娠
- 6) 人工授精の適応と方法について理解し、説明できる。

- 7) 生殖補助医療における採卵あるいは胚移植：術者、助手あるいは見学者として担当する。
- 8) 生殖外科（腹腔鏡検査、腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術）：主治医として担当する。適応を理解し、使用機器とその設定方法を知る。指導医の指導のもとに腹腔鏡、子宮鏡の挿入と腹腔・子宮内の観察などができる。
- △ 9) 不育症の手術療法：子宮腔癒着剥離術（Asherman 症候群）、子宮形成術：主治医として担当する。

IV. 態度

患者の特殊性を十分に理解し、心理的側面を配慮して診療にあたる。カウンセリングの重要性を理解し、とくに、不妊症、不育症、性分化疾患などについては個人的、社会的配慮を示す。また、法的・倫理的側面にも十分留意して診療を行うことができる。

3. 婦人科腫瘍

【一般目標】

女性生殖器に発生する主な良性・悪性腫瘍の検査、診断、治療法と病理とを理解する。性機能、生殖機能の温存の重要性を理解する。がんの早期発見、とくに、子宮頸癌のスクリーニング、子宮体癌、卵巣癌の診断の重要性を理解し、説明、実践する。

【行動目標】

I. 検査

1. 内診

- 内診による小骨盤腔内臓器サイズの評価ができる

2. 細胞診

以下の細胞診を施行し、結果を判定して治療方針を立てることができる。

- 1) 子宮頸部
- 2) 子宮体部

△ 3) 腹水・腹腔洗浄液

3. コルポスコピー

- コルポスコピーの結果を判定することができる。

4. 組織診

以下の組織診を施行し、正常・異常所見を判断して治療方針を立てることができる。1) については、専門医の指導のもとで行う。

- △ 1) コルポ下狙い生検
- 2) 子宮内膜組織診
- 3) 手術摘出標本の取り扱い、病理診断提出

5. 画像診断

1) については、自ら施行し、診断することができる。それ以外は、必要性を判断し、オーダーし、結果を読影できる。

- 1) 超音波検査：経膈、経腹
超音波断層装置による骨盤内臓器の評価ができる
- 2) レントゲン診断（胸部、腹部、骨、IVP）
- 3) MRI
- 4) CT
- △ 5) PET

6. 内視鏡

- 1) 腹腔鏡検査：適応を理解し、使用機器とその設定方法を知る。指導医の指導のもとに腹腔鏡の挿入と腹腔内の観察ができる。
- 2) 子宮鏡検査：適応を理解し、助手を務めることができる。
- △ 3) 膀胱鏡、直腸鏡：必要性を判断できる。

7. 腫瘍マーカー必要に応じて適切な項目をオーダーし、その結果を判断できる。

- 腫瘍マーカー必要に応じて適切な項目をオーダーし、その結果を判断できる。

II. 治療

1. 手術：合計で 50 例以上の婦人科手術（執刀または助手）を経験しなければならない。

- 1) 単純子宮全摘術（執刀医として 10 例以上経験する、ただし開腹手術 5 例以上を含む）
- 2) 子宮筋腫核出術（執刀）
- 3) 子宮頸部円錐切除術（執刀）
- 4) 付属器・卵巣摘出術、卵巣腫瘍・卵巣嚢胞摘出術（開腹、腹腔鏡下を含め執刀医として 10 例以上経験する）
- 5) 悪性腫瘍手術（準広汎子宮全摘術・広汎子宮全摘術、後腹膜リンパ節郭清、悪性腫瘍 staging laparotomy、卵巣・卵管の悪性腫瘍の primary debulking surgery 等の浸潤癌手術、執刀あるいは助手として 5 例以上経験する）
- 6) 膣式手術（頸管無力症時の子宮頸管縫縮術，子宮頸部円錐切除術等を含め執刀医として 10 例以上経験する）
- 7) 子宮内容除去術（流産等時の子宮内容除去術を含め悪性診断目的等の子宮内膜全面搔爬術を執刀医として 10 例以上経験する）
- △ 8) 胞状奇胎除去手術
- 9) 腹腔鏡下手術（執刀医あるいは助手として 15 例以上経験する、ただし 1) ， 4) と重複は可能）
- △ 10) バルトリン腺膿瘍・嚢胞の切開・排膿・造袋術
- △ 11) 子宮頸管・内膜ポリープ切除術

2. 化学療法

主治医として担当する。

適応、レジメン、効果判定、副作用の管理：主治医として担当できる。

3. 放射線療法

放射線腫瘍医と連携し主治医として、放射線療法に携わることができる。

適応、効果判定、副作用の管理：主治医として担当できる。

Ⅲ. 疾病各論

主な婦人科腫瘍を正しく診断し（悪性腫瘍では病期診断を含む）、患者に適切なインフォームドコンセントを行った上で、適切な治療、あるいは、その補助が行える。

1. 子宮の良性腫瘍、類腫瘍病変

- 1) 子宮筋腫、腺筋症：主治医として担当する。
- 子宮筋腫の診断と対応ができる
- 腺筋症の診断と対応ができる
- 2) 子宮頸管・内膜ポリープ：主治医として担当する。

2. 子宮の悪性腫瘍

1) 子宮頸癌／CIN

- 子宮頸癌/CIN 診断と対応ができる
- 子宮頸部円錐切除術の適応が理解できる
- 子宮頸部円錐切除術後妊娠時の留意点が説明できる
- △ 子宮頸部円錐切除術後のフォローアップができる

2) 子宮体癌／子宮内膜（異型）増殖症

- 子宮体癌/子宮内膜（異型）増殖症診断と対応ができる

3) 子宮肉腫

- △ 診断・治療法を理解し、病態について説明できる

3. 子宮内膜症

- 子宮内膜症：子宮内膜症の診断と対応ができる

4. 卵巣の機能性腫大、良性腫瘍、類腫瘍病変

- 1) 卵巣の機能性腫大：正しく診断でき、正しく対応できる。
- 2) 卵巣の良性腫瘍、類腫瘍病変（卵巣チョコレート嚢胞）：主治医として担当する。

5. 卵巣・卵管の悪性腫瘍：主治医として担当する。

○ 1) 卵巣・卵管の悪性腫瘍の診断と対応ができる

6. 絨毛性疾患

△ 胞状奇胎、侵入奇胎、絨毛癌、Placental site trophoblastic tumor (PSTT), Epithelial trophoblastic tumor (ETT)、存続絨毛症について、診断・病態・治療等について説明できる

7. 外陰の腫瘍

○ 1) バルトリン腺膿瘍・嚢胞の対応ができる

△ 2) 外陰がん：診断・治療法を理解する。

△ 3) 膣上皮内腫瘍 (VaIN)、外陰悪性黒色腫、外陰 Paget 病、膣扁平上皮癌、膣悪性黒色腫について説明できる

8. 膣の腫瘍

△ 膣の腫瘍：診断・治療法を理解する。

4. 周産期

【一般目標】

妊娠、分娩、産褥ならびに周産期において母児の管理が適切に行えるようになるために、母児の生理と病理を理解し、保健指導と適切な診療を実施するのに必要な知識・技能・態度を身につける。

【行動目標】

I. 正常妊娠・分娩・産褥の管理

1. 正常妊娠経過に照らして母児を評価し、適切な診断と保健指導を行うことができる。

○ 1) 妊娠の診断

○ 2) 妊娠週数の診断

○ 3) 妊娠に伴う母体の変化の評価と処置

- (1) 妊婦診察
 - (2) 保健指導
 - (3) 生活指導
 - 4) 胎児の発育、成熟の評価
 - 5) 胎児スクリーニングによる異常の指摘
 - △ 6) 胎児異常の評価
2. 正常分娩を管理することができる。(100 例以上)
- 1) 分娩開始の診断 (頸管熟化度の評価, Bishop スコア)
 - 2) 産道、胎児、娩出力の評価
 - 3) 分娩経過の観察と評価 (Non-stress test (NST)、contraction stress test (CST)、biophysical profile score (BPS) Friedman 曲線、分娩進行度評価 (児頭下降度と子宮頸管開大))
 - 4) 分娩補助動作の指導 (短息呼吸、怒責・腹圧、待機姿勢、分娩体位)
 - 5) 分娩介助の実施と管理
3. 正常産褥を管理することができる。(100 例以上)
- 1) 褥婦の診察と評価
 - 2) 復古現象の評価
 - 3) 褥婦の動静と栄養の管理指導
 - △ 4) 授乳・育児指導
4. 正常新生児を日本版 NRP (新生児蘇生法) NCPR に基づいて管理するとともに、異常新生児のスクリーニングとプライマリケアを行うことができる。正常新生児 (100 例以上)
- 1) 新生児の診察
 - 2) 正常新生児の管理

II. 異常妊娠・分娩・産褥のプライマリケア、管理

1. 異常妊娠のプライマリケアを行うとともに、リスクの評価を自ら行い、必要な治療・措置を行うことができる。

- 1) 妊娠悪阻 (Wernicke 脳症)
- 2) 切迫流産、流産
- 3) 異所性妊娠 (子宮外妊娠)
- 4) 胞状奇胎
- 5) 切迫早産・早産
- 6) 常位胎盤早期剥離
- 7) 前置胎盤、低置胎盤(常位胎盤早期剥離例と合わせ 5 例以上の帝王切開執刀あるいは帝王切開助手を経験する)
- 8) 多胎妊娠
- 9) 妊娠高血圧症候群 (PIH) および HELLP 症候群
- 10) 子癇
- 11) 胎児機能不全
- 12) 羊水過多 (症)、羊水過少 (症)
- 13) 過期妊娠 (妊娠 41 以降妊婦への対応)
- 14) 妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠
- 15) 血液型不適合妊娠
- 16) 偶発合併症妊娠 (婦人科疾患、心血管系疾患、血液疾患、泌尿器疾患、内分泌代謝疾患、自己免疫疾患、感染症疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、精神神経疾患)
- 17) 胎児発育不全 (FGR)
- 18) 妊婦の感染症、母子感染
- △ 19) 胎児異常

2. 異常分娩のプライマリケアを行うとともに、リスクの評価を自ら行い、必要な治療・措置を講じることができる。

- 1) 微弱陣痛、過強陣痛
- 2) 産道の異常：児頭骨盤不均衡 (CPD)、狭骨盤を含む
- 3) 胎位・胎勢・回旋の異常 骨盤位牽出術の適応・方法を理解し説明できる。
- 4) 遷延分娩
- 5) 吸引分娩または鉗子分娩
- 6) 前期・早期破水

- 7) 胎児機能不全
- 8) 絨毛膜・羊膜炎
- 9) 膣・会陰裂傷、頸管裂傷
- △ 10) 子宮破裂（切迫破裂、過強陣痛）
- △ 11) 臍帯の異常：臍帯脱出、下垂を含む
- 12) 胎盤の異常：癒着胎盤を含む
- 13) 弛緩出血を含む分娩時異常出血
- △ 14) 産科ショック：「産科危機的出血へのガイドライン」に基づく管理
- △ 15) 羊水塞栓症

3. 異常産褥のプライマリケアを行うとともに、リスクの評価を自ら行い、必要な治療・措置をとることができる。

- 1) 子宮復古不全
- △ 2) 産褥出血
- △ 3) 産褥熱
- 4) 静脈血栓症、肺塞栓（妊娠中も含む）
- 5) 乳腺炎、乳汁分泌不全
- △ 6) 産褥精神障害、マタニティーブルー

III. 異常新生児のプライマリケアを行うとともに、リスクの評価を自ら行い、必要な治療・措置を講じることができる。

- △ 1. 早産、低出生体重児
- △ 2. 新生児仮死の管理
- △ 3. 新生児異常の診断と管理

IV. 妊婦、産婦、褥婦ならびに新生児の薬物療法を行うことができる。妊婦、産婦、褥婦および新生児における薬物療法の基本、薬効、副作用、禁忌薬を理解したうえで薬物療法を行うことができる。以下の薬剤の適応を理解し、適切に処方できる。

- 1. 子宮収縮抑制薬
- 2. 子宮収縮薬

○ 3. 抗菌薬：妊婦の感染症の特殊性、母体・胎内感染の胎児への影響も理解する。

V. 各種産科検査法の原理と適応を説明し、検査データを解釈して、適切な臨床判断を下すことができる。

○ 1. 妊娠反応

○ 2. 超音波検査（経膈法、経腹法、△血流ドプラ法）

3. 胎児超音波スクリーニング（NT、胎児心臓スクリーニング）

○ 4. 胎児心拍数陣痛計による検査・胎児胎盤機能検査法

△ 5. 出生前診断法：羊水検査法を含む

VI. 産科手術、産科処置の適応と要約を理解し、自ら実施、執刀することができる。

○ 1. 頸管拡張術（分娩誘発のため）

○ 2. 子宮内容除去術（10例以上）

△ 3. 頸管縫縮術

○ 4. 帝王切開術（執刀医として30例以上、助手として20例以上）

○ 5. 会陰切開・頸管裂傷・会陰裂傷・膣裂傷縫合術

○ 6. 急速遂娩：吸引分娩術または鉗子分娩術

△ 7. 胎盤圧出法、胎盤用手剥離術

△ 8. 子宮双合圧迫法（バクリバルーン留置止血法を含む）

△ 9. 分娩後の子宮摘出（Porroの手術）：適応を理解することができる。

VII. 産科麻酔の種類、適応ならびに要約を理解し、自ら、あるいは依頼して実施することができる。

△ 1. 麻酔法の選択

△ 2. 無痛分娩

VIII. 態度

○ 1. 母性の保護、育成に努める。

○ 2. 妊産褥婦の特殊性をわきまえ、暖かく指導・管理に当たる。

- 3. 子宮内の胎児に対しても人としての尊厳を付与されている対象としてヒューマニティーに満ちた配慮をする。
- 4. 地域医療の分担者として必要な情報伝送や的確な患者搬送を行い、もって密な連携を保つ。

5. 女性のヘルスケア

I. 女性のヘルスケア

【一般目標】

女性のトータルヘルスケアを担当する診療科として、他科との連携の下、一生涯にわたって全人的な医療を行うことができる。思春期、性成熟期、更年期・老年期それぞれの時期特有の疾患の病態を理解し、適切な診療を実施するのに必要な知識・技能・態度を身につける。

【行動目標】

1. 思春期

- △ 1) 性分化異常、性器発生・形態異常を理解し、適切な診断、治療を述べることができる。
- △ Turner 症候群、アンドロゲン不応症、膣欠損症（Mayer-Rokitansky-Küster-Hauser 症候群）について説明できる
- 2) 思春期の発来機序およびその異常を理解し、適切な診断、治療を述べることができる。
- △ 早発思春期、遅発思春期について理解する
- 3) 月経異常の診断ができ、適切な治療法を述べることができる
- 4) 年齢を考慮した避妊法を理解し、指導することができる。
- 低用量経口避妊薬を避妊薬としてのみでなく、それ以外の効用も理解し、「女性のヘルスケア」のために使用できる。
- 5) HPV ワクチンの長所・短所を理解し、保護者を含めて接種を指導できる。

2. 中高年女性のヘルスケア

- 1) 更年期・老年期女性のヘルスケア

- (1) 更年期前後の加齢とエストロゲンの減少に伴う精神・身体機能全般に生じる変化（骨量や血中脂質変化等）を理解し、述べることができる。
- (2) 「中高年女性のヘルスケア」における以下の疾患の重要性を理解し、適切にスクリーニング、診断ができ、生活指導と適切な薬物治療が行える。
- (1) 更年期障害
 - 更年期障害に伴う自律神経失調症状、エストロゲン欠落症状
- (2) 骨粗鬆症
- (3) メタボリック症候群（脂質異常症、肥満、高血圧）
 - スクリーニング検査
 - ① 血圧測定
 - ② 骨量測定（DEXA）
 - ③ 心理テスト
 - ④ 脂質検査
 - 治療薬
 - ① ホルモン補充療法（メリットおよびデメリットを理解する。）
 - ② 骨粗鬆症治療薬
 - ③ 脂質異常症治療薬
 - ④ 向精神薬、とくに抗うつ薬
 - ⑤ 漢方薬（○ ①②は必修）
- 2) 骨盤臓器脱（POP）を理解、診断し、適切な治療法を述べることができる。手術の助手を務めることができる。
- 子宮脱・子宮下垂・膣脱（尿道過可動・膀胱瘤・直腸瘤・小腸瘤）の適切な治療法を説明できる
- △ 子宮脱・子宮下垂の保存療法（膣内ペッサリー）、子宮脱・子宮下垂の手術療法（膣式単純子宮全摘術および上部膣管固定術、前膣壁形成術、後膣壁形成術、Manchester手術、膣閉鎖術、Tension-free Vginal Mesh [TVM]法）、腹圧性尿失禁に対する手術療法（tension-free tape [TVT/TOT]法）を経験する
- 3. 感染症
 - 1) 性器感染症の病態を理解し、適切な診断、治療を行うことができる。

- (1) 子宮内膜炎、子宮付属器炎、カンジダ膣炎・外陰炎、トリコモナス膣炎、細菌性膣症、尿路感染症（膀胱炎、腎盂腎炎）の治療ができる
- △ (2) 骨盤腹膜炎と汎発性腹膜炎、Fitz-Hugh-Curtis について説明できる

- 2) 性感染症 (STD) の病態を理解し、適切な診断・治療を行うことができる。
- (1) クラミジア頸管炎、淋菌感染症、性器ヘルペスの治療ができる
- △ (2) 梅毒、HIV 感染について説明できる
- △ (3) 性器結核について説明できる

- 3) 産科感染症→産科・周産期の項参照

4. その他

- △ 1) 性器の損傷・瘻孔の発生および症候について、基本的な知識を有し、治療法を述べることができる。手術の助手を務めることができる。
- △ (1) 臓器間の瘻孔（尿道膣瘻、膀胱膣瘻、尿管膣瘻、直腸膣瘻、小腸膣瘻）の原因について説明できる
- △ (2) 月経瘻（子宮腹壁瘻、子宮膀胱瘻、子宮直腸瘻）の成因について説明できる
- △ 2) ベーチェット病について説明できる
- △ 3) 産科婦人科心身症の基本を理解し、具体的に述べることができる。

II. 母性衛生

【一般目標】

母性の生涯にわたる各時期における生理、心理を理解し、適切な保健指導ができる能力を身につける。

【行動目標】

各時期における女性の生理、心理を理解し、適切な保健指導ができる。

1. 思春期
 2. 性成熟期
- 経口避妊薬や低用量エストロゲン・プロゲステロン薬の処方ができる

3. 更年期・老年期
4. 母子保健統計